

## BEST SELF (最良の自己)

1869年マシュー・アーノルド著書の「教養と無秩序」を読み直しました。  
(アーノルドはラグビースクールを創設したドクター・アーノルドの息子。)

ここで皆さんにお伝えしたいことは、私が今まで聞いた中で、最も賢明なことです。この日記で皆さんにお伝えできることは、最も素晴らしいアドバイスとなるでしょう。それは皆さんが、生きていく上での動機付け（スター）となり、アーノルドが言うベストセルフ（最良の自己）のコンセプトです。このベストセルフと、スウィートネス&ライト（優美と光明）のコンセプトは、20年前にこの本を初めて読んで以来ずっと私が持ち続けてきたものです。スウィートネス&ライトのコンセプトは（元はジョナサン・スウィフトの「書物合戦」で提唱されました。）ベストセルフを理解するために必要となります。これら二つの情熱は補足物で、ベストセルフの動力となります。

スウィートネス（優美）は共感、私たちの心です。

all the love of  
our neighbour, the impulses towards action, help, and  
beneficence, the desire for removing human error, clearing  
human confusion, and diminishing human misery, the noble  
aspiration to leave the world better and happier than we  
found it,—motives eminently such as are called social

近隣の人への愛、行動、助け、そして善行への衝動、人の過ちを除却する欲望、人の困惑をはっきりとさせ、人の苦悩を軽減させる、世界を私たちが知っているよりも、よりよく、より幸福にする気高い熱望。  
社会と呼ばれるような著しい動機

ライト（光明）は科学的な情熱、私たちの精神です。

— a desire after the things of the mind  
simply for their own sakes and for the pleasure of seeing  
them as they are —

興味があることを考える欲望、そしてそれをそのままに見る喜び

私たちは誰もが自分のベストセルフというものを知っています。特に通常の自分と比べた時に知るものです。私たちの通常とは、通常に合うことをするわけです。欲望を満たし、すぐに満足したが、できることは何でもします。子供じみているわけです。行動するのが好きで、しばし情熱を持っています。しかし考えることはあまりしません。物質的成功を欲求することは嫉妬深く、ゴシップを通してアドレナリンを得て、問題を起こし、その「犯人」を処罰します。ベストセルフについて最も賢いことを言うならば、それは皆さんがベストセルフ（最良の自己）を知っているとうことです。それは皆さんが親切で、勇敢で、物事に立ち向かう時です。

アーノルドは、ベストセルフへの情熱を巧みに作り上げています。スウィートネス（優美）、古代ギリシャ人は優美だったそうです。

**Greece did not err in having the idea of beauty, harmony, and complete human perfection, so present and paramount. It is impossible to have this idea too present and paramount ; only, the moral fibre must be braced too.**

古代ギリシャ人が持っていた美や調和、そして完全なる人間の完成への考えに、間違いはなかった。そこにきちんと存在し、そしてとても重要だった。モラルの素質も補強されたに違いない。

道徳の素質はライト（光明）です、それは「自分たちのため、そして物事があるのまに見る喜びのための精神的な欲望」です。単にそうなりたいのではありません。これは知的な華美です。

どうやったら自分のベストセルフ（最良の自己）を磨いていけるのでしょうか。皆さんに私自身の例を教えてください。子供の頃の私は、意地悪ではありませんでした。なぜなら世界には苦しんでいる人達がいることを知っていたからです。情報が必要でした。11歳までは本でもそんなことを読んだことはありませんでしたが、後にグラマースクールに行き、文学と出会いました。18か19歳の頃、教員になるために訓練していた学校で一緒だった友人のスーザンが、私を劇場へと連れて行ってくれました。20代後半、私は政治を理解し始めました。ヒッピーが私たちに政治的関心を持たせてくれ、「アンダーグラウンド」な本屋がありました。

マルコムが私をアートの世界へと導いてくれました。しかしそこに光が灯ることはありませんでした。それから30代後半、私はギャリー・ネスに出会いました。彼はバートランド・ラッセル、ハクスリー、プルーストといった人達の本を読むことを私に薦め、そしてアートと音楽も私に教えてくれました。ギャリーに会わなかったら、私は今の私ではなかったでしょう。彼が私の世界観を広げてくれました。私の夫アンドレアスは独特な視点を持ってい

ます。誰も彼が何を言うかなんて予測できないでしょう。彼は物事の魂を見ているような感じなのです。

私が若い頃は、ポップカルチャーに夢中でした。それはそれで良かったと思います。10代は動き回るのにはとても良い時ですが、長続きはしません。皆さんは、自分に情報を与え、何を見ているのかにきちんと気付く必要があるのです。私は独学で色々勉強していますが、このように人から教えてもらえるまでは、一体どこで見たい物を見れば良いのかなんて知り得なかったでしょう。ライト（光明）のスイッチがはいると、見え始めるのです。そして見えたものは続けていかなければなりません。皆さん方を導くのはベストセルフです。それは道徳の選択で、世界を理解しようとする事、そして偉大なヒューマンドラマの一部になることなのです。

本物の文化とはスウィートネス&ライト（優美と光明）によって作られています。

ベストセルフ（最良の自己）は物語の主役です。

The whole scope of the essay is to recommend culture as the great help out of our present difficulties; culture being a pursuit of our total perfection by means of getting to know, on all the matters which most concern us, the best which has been thought and said in the world; and through this knowledge, turning a stream of fresh and free thought upon our stock notions and habits,

And  
the culture we recommend is, above all, an inward operation.

エッセイの全体像は、文化を推奨することだ。文化とは、我々を現状の困難な状態から救い出してくれる。知るという手段によって、我々の完全なる完成を追求する文化。我々に最も関係する全ての問題に対して、世界中で考えられ、言われてきた最良のこと。この知識を通して、我々が蓄えている概念と習慣を、新鮮で自由な思考に変えてくれる。

そして我々が推奨する文化は、とりわけ、内なる活動なのだ。



アーノルドが完全なる完成を追求する話は、私たちそれぞれの実践、そして発展に言及しています。文化を通して、私たちがもっと人間らしくなる、教養高くなる能力。20世紀まで、また20世紀の主な風潮は、凡庸な自分を磨くこと、私たちが好きなようにすることだとされてきました。この風潮は現在の世界的風潮となっています。私たちは発展という中に捕われてきたのです。これは政治家が進歩できない理由です。彼らは罫の中にはまってしまって、古く腐敗した金融システムに未だに張り付いているわけです。進歩は、消費によって測られてきました。これは、私が、私たちは文化不足という危機に瀕していると皆さんに言っている理由です。もし私たちの道徳観がベストセルフ（最良の自己）であったならば、今の私たちは違う価値観を持っていたはずです。私たちは気候を変えることなんてしなかったでしょう。それは人々がアートギャラリーなどへ行かなくなり、私たちの今ある偉大な文化的伝統にだけとらわれているということではないのです。人々はやることはやっています。しかし彼らの情熱が意欲的ではないのです。私たちは消費者として鍛え上げられました。私たちは「かつて考えられ、言われ、見せられてきた最良」と、かみ合っていません。それでも、芸術愛好家は、世界をよりよくしようと戦う自由戦士なのです。